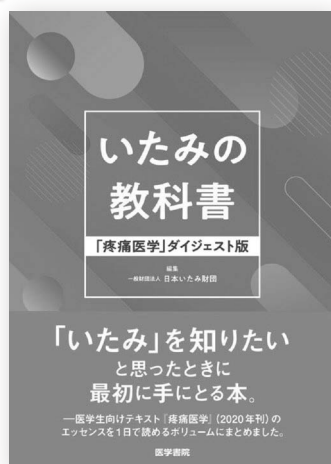


今月の特集関連本



いたみの教科書

「疼痛医学」ダイジェスト版

一般財団法人 日本いたみ財団＝編

定価 2,420 円/A5 判・120 頁/医学書院/2021

本邦初のテキスト『疼痛医学』(p.1321)のダイジェスト版。なかなかとれない「いたみ」を訴える患者さんと出会った時、「いたみ」の機序を知りたい時、「いたみ」への対応を求められた時、「いたみ」の今が“ザックリ”つかめるよう編集した。1日で通読できる、疼痛医学の超入門書。「いたみ」に出合ったら、まずはここから。



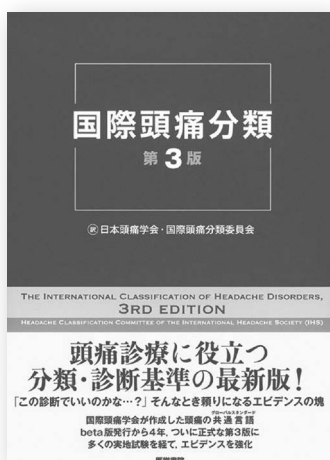
慢性痛のサイエンス

脳からみた痛みの機序と治療戦略

半場道子＝著

定価 3,740 円/A5 判・204 頁/医学書院/2018

「痛み」の概念に大きなパラダイムシフトが起きている。本書では、加速化する新しいサイエンスの視点に立ち、脳科学・神経科学から「慢性痛」のメカニズムを紐解き、治療のターゲットを明らかにする。さらに、新しい痛みの概念として慢性炎症による神経変性疾患の病態に迫った。



国際頭痛分類 第3版

日本頭痛学会・国際頭痛分類委員会＝訳

定価 5,280 円/B5 判・282 頁/医学書院/2018

国際頭痛学会が作成した頭痛の分類・診断基準の第3版。堅い見た目ながら、研究はもちろん、臨床においてもよきパートナーになること請け合い。診断に困ったらぜひ本書を引いてみてほしい。役立つヒントがたくさんあるはず。第5章を「不定愁訴」に割いた本書は、神経内科医、脳神経外科医、総合診療医にとっても、『慢性頭痛の診療ガイドライン』とともに手元に置いておくべき1冊。